

(株)むぎわらぼうし(長野県松本市)

～周年栽培、通年雇用を目指した作物導入～

取組のポイント

- ①法人化し、すいか、りんごの作付け拡大に加え、ねぎ、施設いちごを栽培。通年雇用と周年出荷を実現。
- ②農業用水を活用し、すいか、ねぎ等は安定生産と品質向上。農地中間管理機構を活用して農地を集積・集約化。
- ③「信州の環境にやさしい農産物認証」、JGAPを取得し、大手スーパー等へ出荷。



取組内容

①通年雇用・周年出荷

法人化前はすいかが主幹作物であったが、リスクの分散と年間を通じ安定した労働力の確保、周年での栽培、出荷となるよう、夏はすいか、秋はねぎ、りんご、冬から春にかけて施設いちごを栽培する体系を確立。

法人の経営概要

代表取締役大月征典

設立年：平成19年

社員数：16人

販売額：104百万円

経営面積：8.0ha

主要作物：すいか5.5ha,
りんご1.0ha, ねぎ1.2ha,
いちご0.3ha



りんごの高密度栽培



ねぎの収穫作業

②栽培技術の確立・向上

ねぎ栽培、りんごの省力栽培として導入した高密度栽培は、適切なかん水が不可欠であり、国営事業で安定供給されている農業用水を活用することで収量、品質が向上。すいか栽培では親づる仕立て法を導入することで熟練を要す整枝作業が容易になり、栽培面積の拡大が可能となった。また、発酵肥料等を使用した健全な土作りにより、化学合成肥料を慣行栽培に比べ8割減、殺菌剤を5割減。

③流通・販売の工夫

長野県の「信州の環境にやさしい農産物認証」を取得。さらに酵素を使った栽培や、化学肥料の使用を極力抑えた栽培方法に取り組むことで法人化後、栽培品目すべてのブランディングを進め、大型小売店等と取引。また、すいか栽培ではJGAP認証農場を取得したことで価値を高め、販路拡大。



事業概要

地区名：中信平二期地区

事業種：国営かんがい排水事業

関係市：長野県松本市外2市2村

受益面積：8,847ha

工期：平成17年度～平成26年度

事業目的：用水改良

主要工事：頭首工1カ所、
用水路L=28.5km

	法人化前	現在
経営面積 (ha)	3.1	8.0